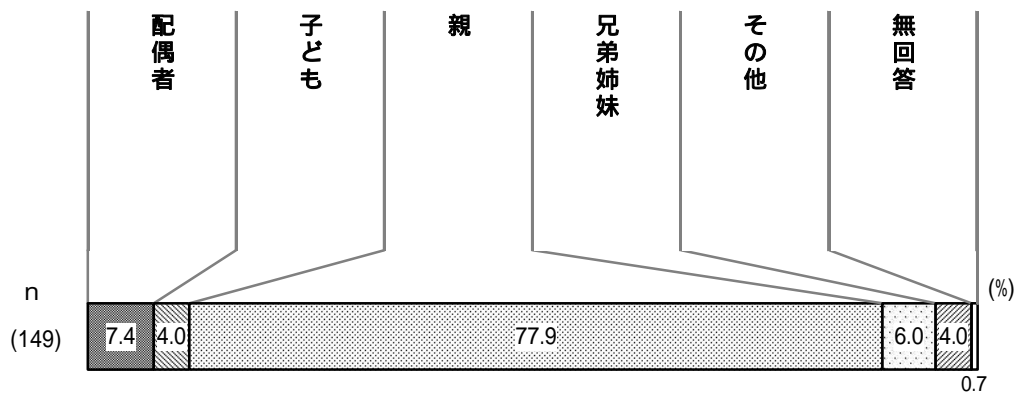


アンケート調査
(精神障害者の家族)

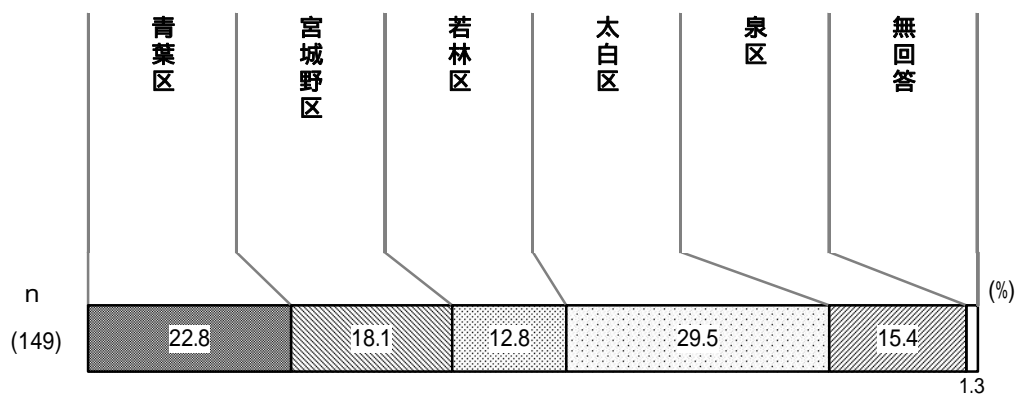
1 基本的な属性について

問1 この調査票の記入者は誰ですか。(S A)



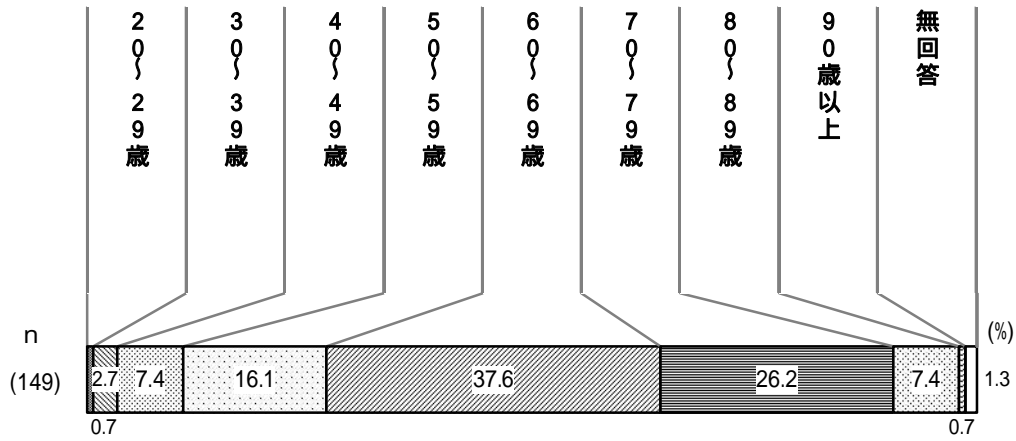
調査票の記入者については、「親」が77.9%を占めている。

問2 あなたのお住まいの区はどこですか。(S A)



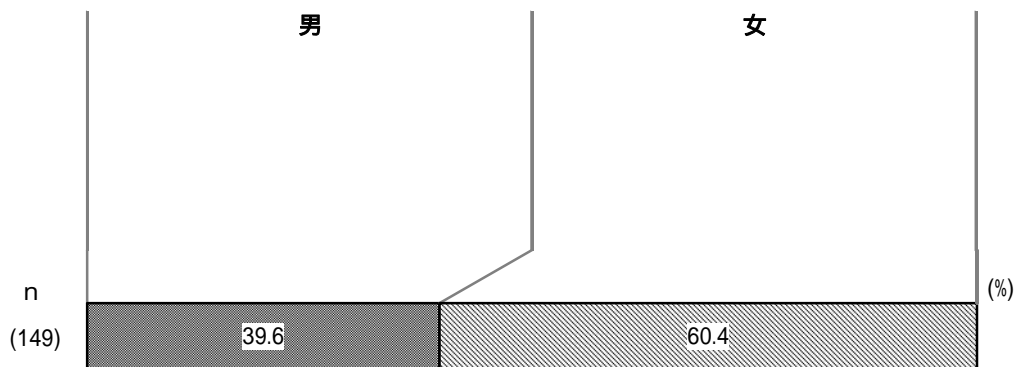
居住区については、「太白区」(29.5%)が最も多く、以下「青葉区」(22.8%)、「宮城野区」(18.1%)、「若林区」(12.8%)、「泉区」(15.4%)となっている。

問3 あなたの年齢は何歳ですか。(数値)



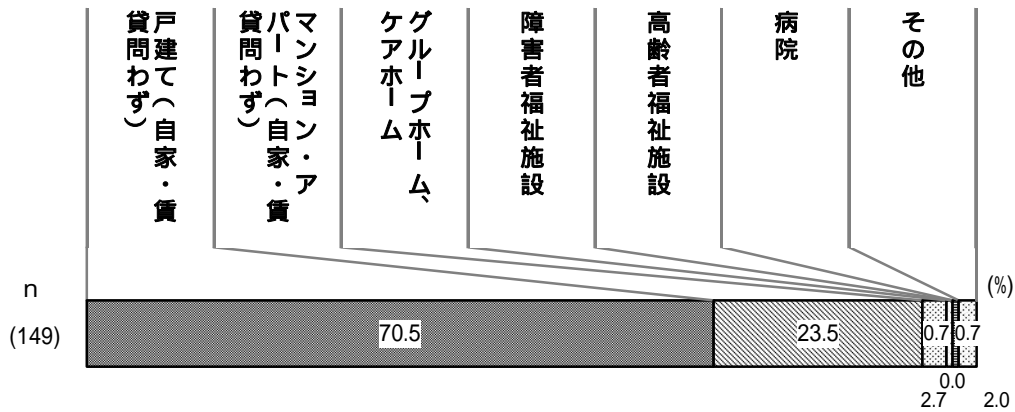
年齢については、「60～69歳」(37.6%)が最も多く、以下「70～79歳」(26.2%)、「50～59歳」(16.1%)となっている。

問4 あなたの性別は男、女のどちらですか。(SA)



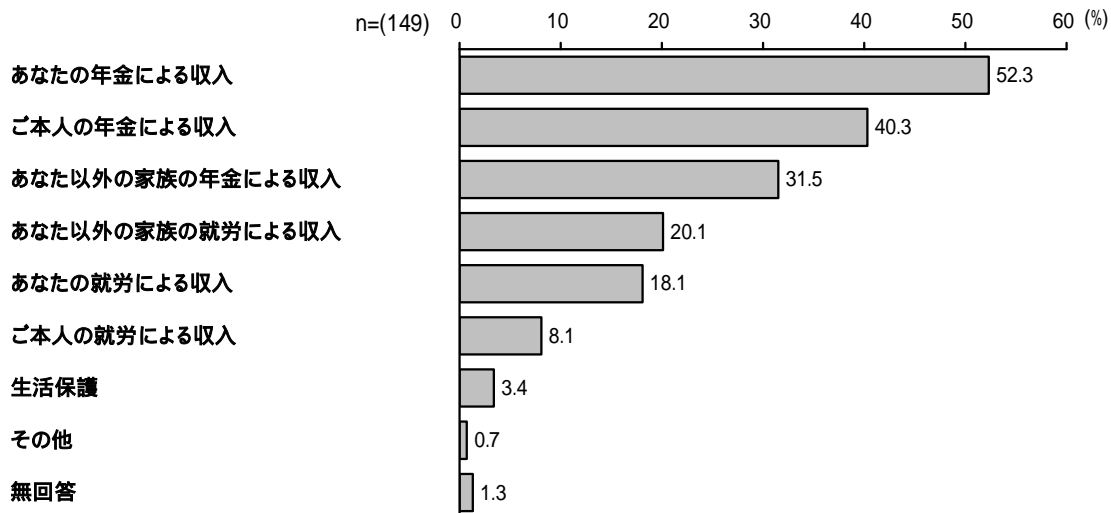
性別については、「女」が60.4%、「男」が39.6%となっている。

問5 現在、ご本人のお住まいは次のうちどれですか。(S A)



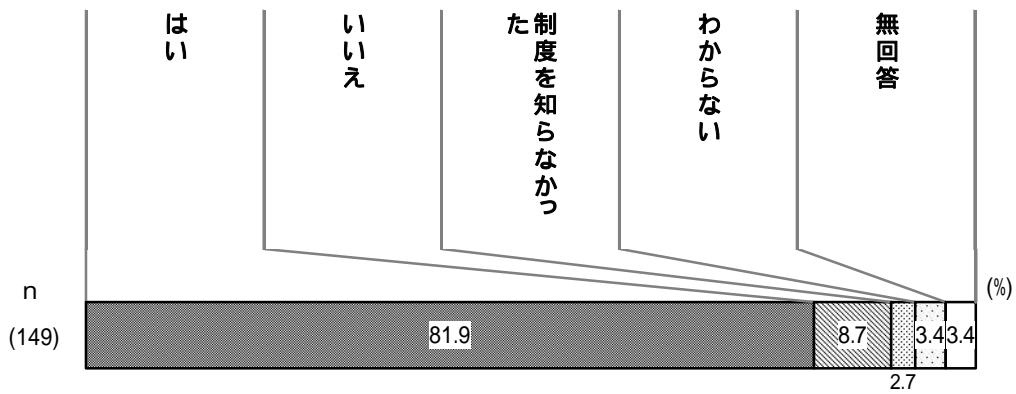
現在の住まいについては、「戸建て(自家・賃貸問わず)」が70.5%を占めている。以下「マンション・アパート(自家・賃貸問わず)」(23.5%)、「グループホーム、ケアホーム」(2.7%)となっている。

問6 あなたのご家庭の収入は次のうちどれに該当しますか。(M A)



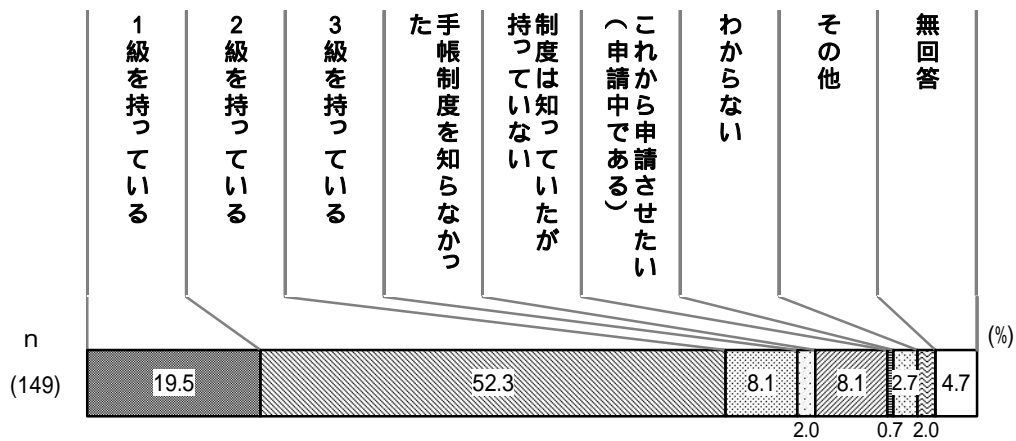
家族の得ている収入の種類については、「あなたの年金による収入」(52.3%)が最も多く、以下「ご本人の年金による収入」(40.3%)、「あなた以外の家族の年金による収入」(31.5%)となっている。

問7 ご本人は障害者自立支援医療制度を利用していますか。(S A)



障害者自立支援医療制度の利用状況については、利用したことがある人が81.9%を占めている。

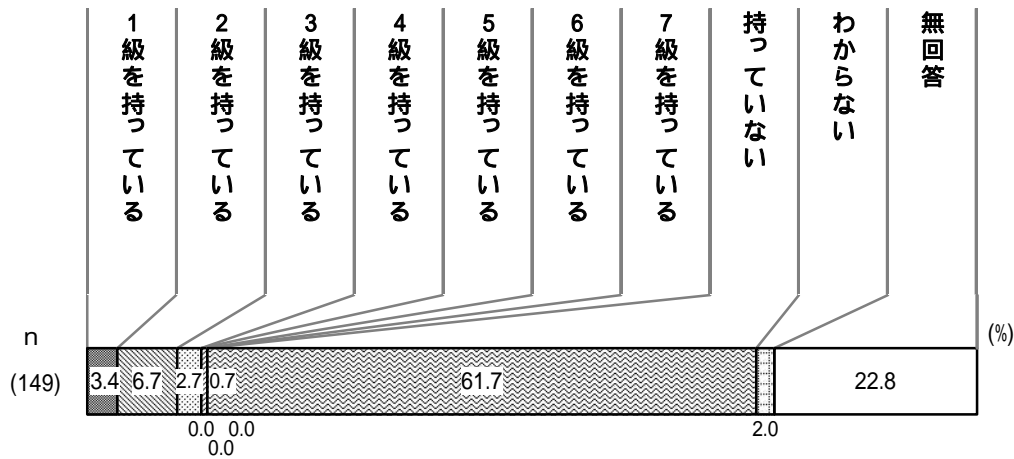
問8 ご本人は精神障害者保健福祉手帳を持っていますか。(S A)



精神障害者保健福祉手帳の有無については、「2級を持っている」(52.3%)が最も多く、以下「1級を持っている」(19.5%)、「3級を持っている」(8.1%)となっている。

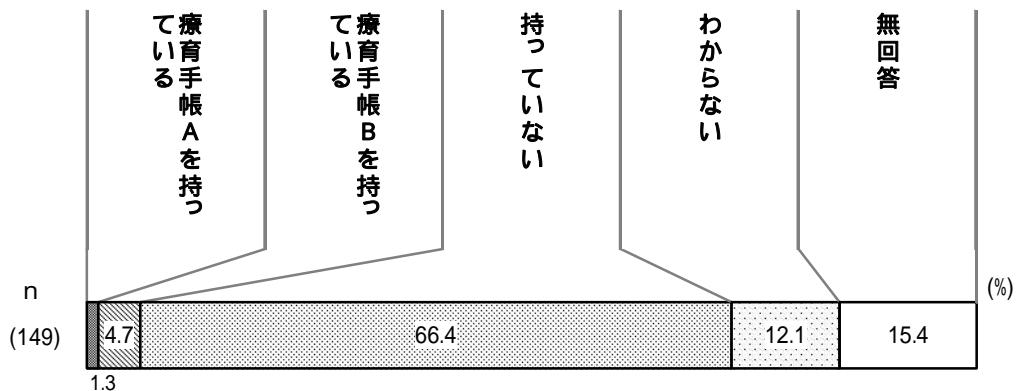
なお、「制度は知っていたが持っていない」は8.1%となっている。

問9 ご本人は身体障害者手帳を持っていますか。(S A)



身体障害者手帳の有無については、持っている人は、「2級を持っている」(6.7%)が最も多く、次いで「1級を持っている」(3.4%)、「3級を持っている」(2.7%)となっている。一方、「持っていない」は61.7%となっている。

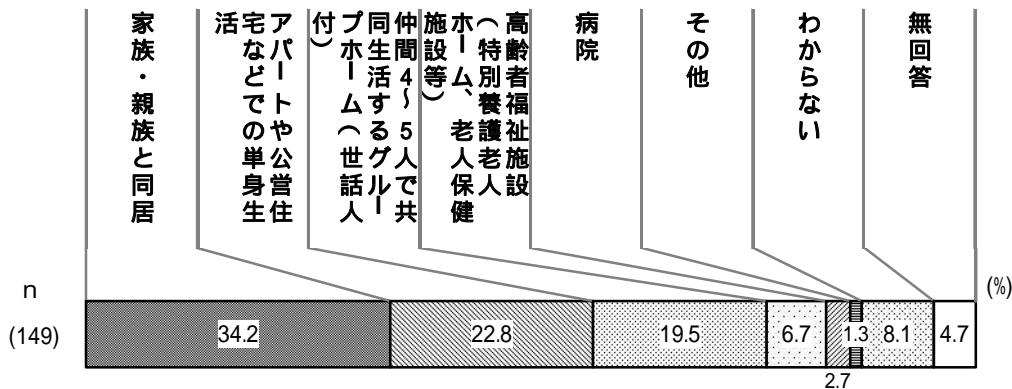
問10 ご本人は療育手帳を持っていますか。(S A)



療育手帳の有無については、「療育手帳Bを持っている」は4.7%、「療育手帳Aを持っている」は1.3%となっており、これらをあわせると、「療育手帳所持者」は6.0%となっている。一方、「持っていない」は66.4%となっている。

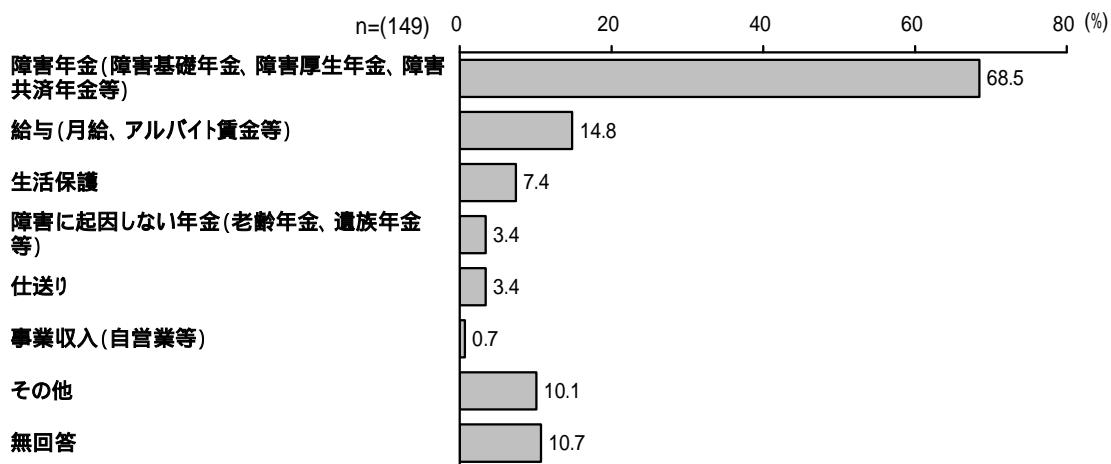
2 日常生活について

問 11 将来、ご本人にはどのように暮らしてほしいと思いますか。(S A)



希望する住まいの場については、「家族・親族と同居」(34.2%)、以下「アパートや公営住宅などでの単身生活」(22.8%)、「仲間4~5人で共同生活するグループホーム(世話人付)」(19.5%)となっている。

問 12 ご本人の得ている収入は次のうちどれですか。(M A)

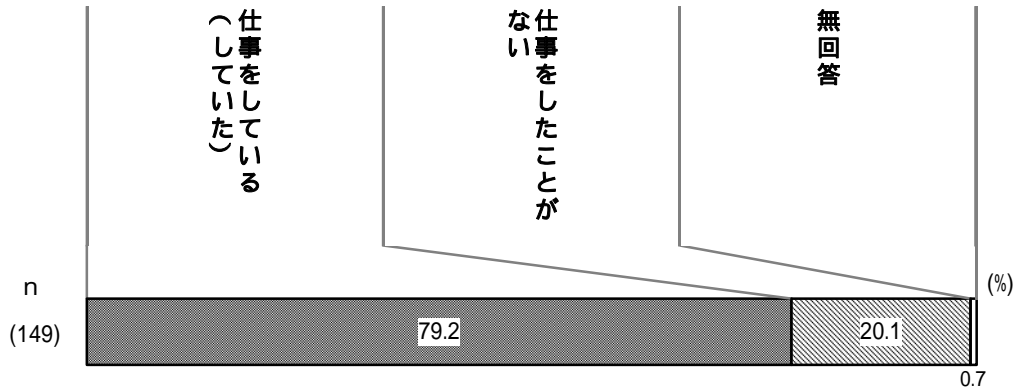


本人の得ている収入の種類については、「障害年金(障害基礎年金、障害厚生年金、障害共済年金等)」(68.5%)が最も多く、以下「給与(月給、アルバイト賃金等)」(14.8%)、「生活保護」(7.4%)となっている。

なお、「その他」(10.1%)の内容については、「無収入」が多くなっている。

3 就労状況について

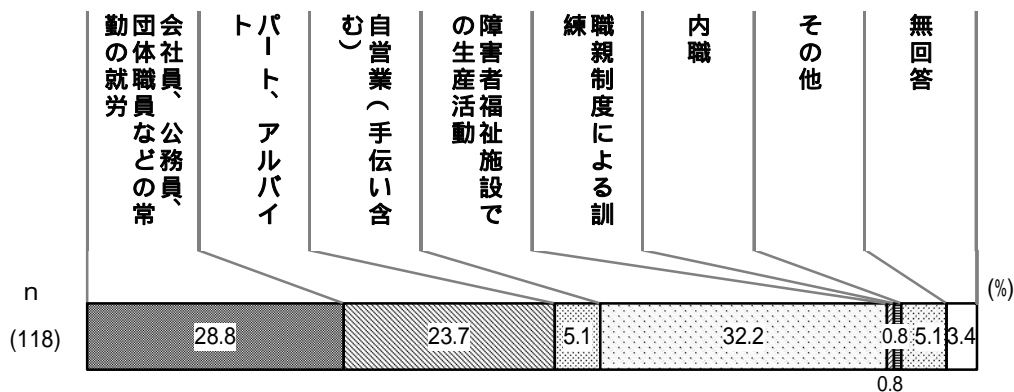
問13 ご本人は仕事をしていますか(いましたか)。(SA)



仕事の有無については、「仕事をしている(していた)」が79.2%を占めている。

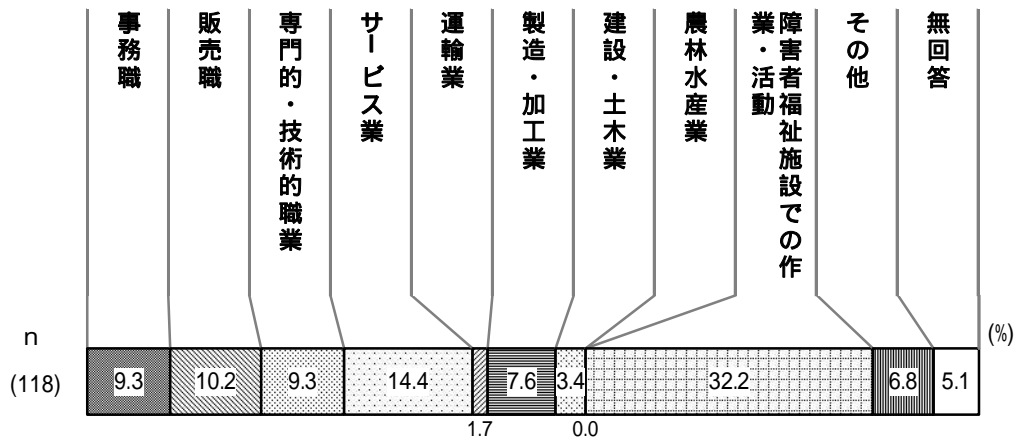
問14 13において「1 仕事をしている(していた)」を選択した方におたずねします。

(1) どのような仕事に就いていますか(いましたか)。(SA)



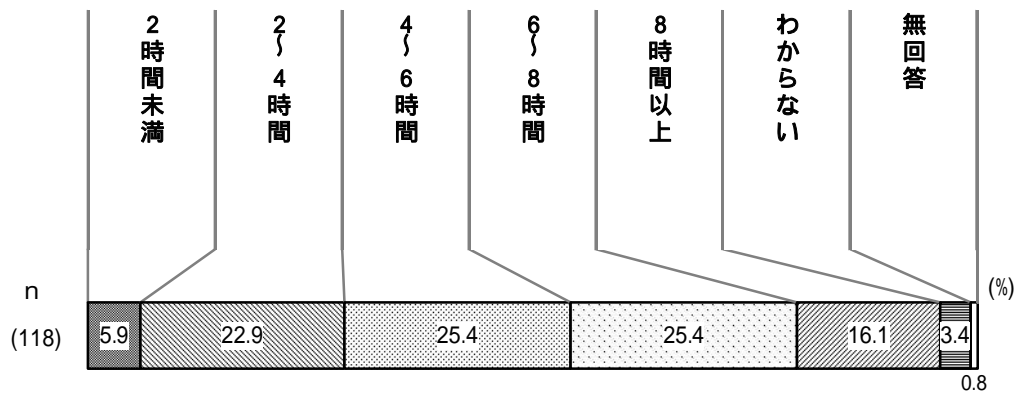
就いている仕事の種類については、「障害者福祉施設での生産活動」(32.2%)が最も多く、以下「会社員、公務員、団体職員などの常勤の就労」(28.8%)、「パート、アルバイト」(23.7%)となっている。

(2) どのような内容の仕事をしていますか(いましたか)。(SA)



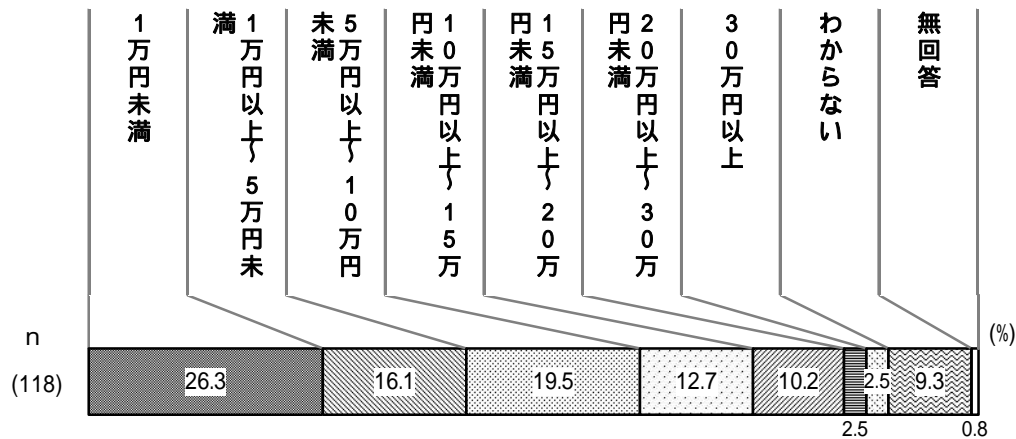
就いている仕事の内容については、「障害者福祉施設での作業・活動」(32.2%)が最も多く、以下「サービス業」(14.4%)、「販売職」(10.2%)となっている。

(3) 1日あたりの仕事の時間はどのくらいですか(でしたか)。(SA)



1日あたりの仕事時間については、「4~6時間」、「6~8時間」がともに25.4%で多く、以下「2~4時間」(22.9%)、「8時間以上」(16.1%)となっている。

(4) 仕事による収入は月額どのくらいですか(でしたか)。(SA)



仕事による月収については、「1万円未満」(26.3%)が最も多く、以下「5万円以上～10万円未満」(19.5%)、「1万円以上～5万円未満」(16.1%)となっている。

問15 13において「2 仕事をしたことがない」を選択した方におたずねします。

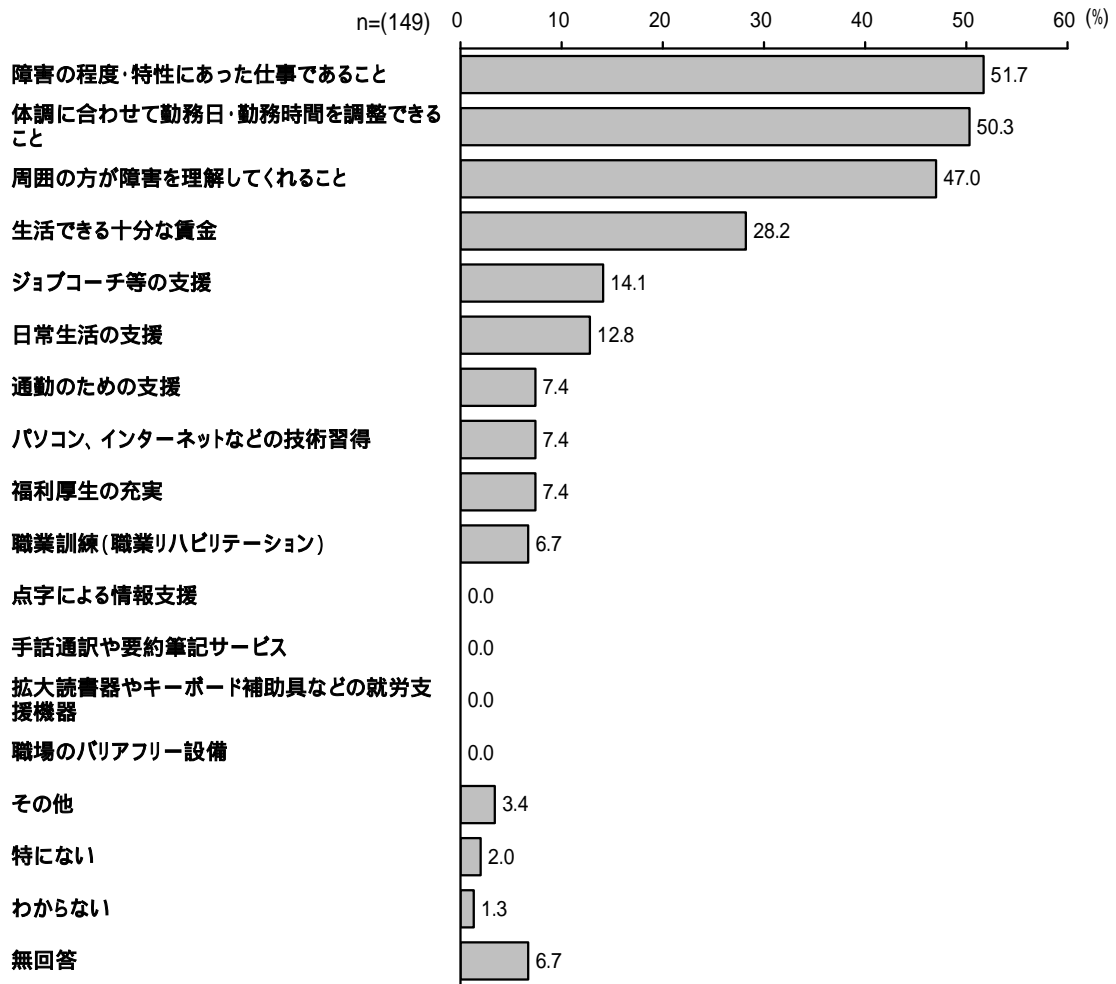
理由は何ですか。(MA)

(上段:件数, 下段:%)

調査数	障害の程度・特性にあった仕事がないため	病気のため	重度の障害のため	体力的にできないため	通勤が困難なため	高齢のため	求人が少なく仕事が見つからないため	家事のため	仕事をする必要がないため	通学中・勉強中・職業訓練中のため	その他	特になし	無回答
30	19	18	7	7	4	2	2	2	2	1	0	0	2
100.0	63.3	60.0	23.3	23.3	13.3	6.7	6.7	6.7	6.7	3.3	0.0	0.0	6.7

仕事をしていない理由については、「障害の程度・特性にあった仕事がないため」(19件)が最も多く、以下「病気のため」(18件)、「重度の障害のため」、「体力的にできないため」(ともに7件)となっている。

問 16 ご本人が仕事を続ける（就職する）ためには何が必要だと思いますか。（MA）

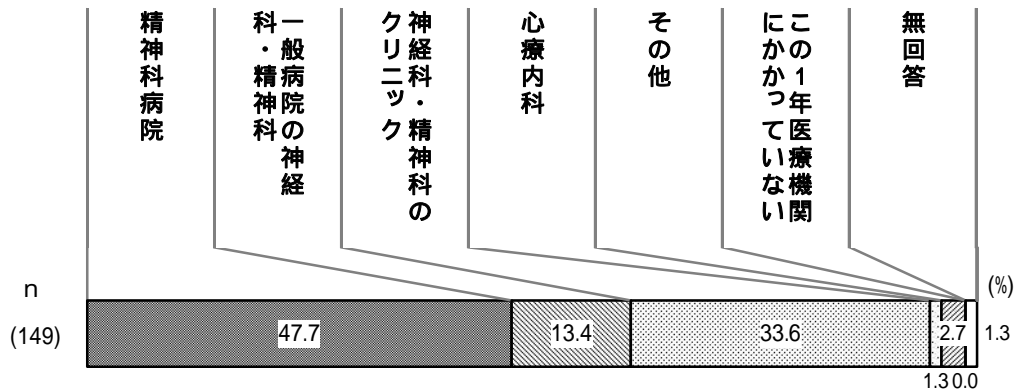


仕事を続ける（就職する）ために必要なことについては、「障害の程度・特性にあった仕事であること」(51.7%)が最も多く、以下「体調に合わせて勤務日・勤務時間を調整できること」(50.3%)、「周囲の方が障害を理解してくれること」(47.0%)となっている。

一方、「特にない」は、2.0%となっている。

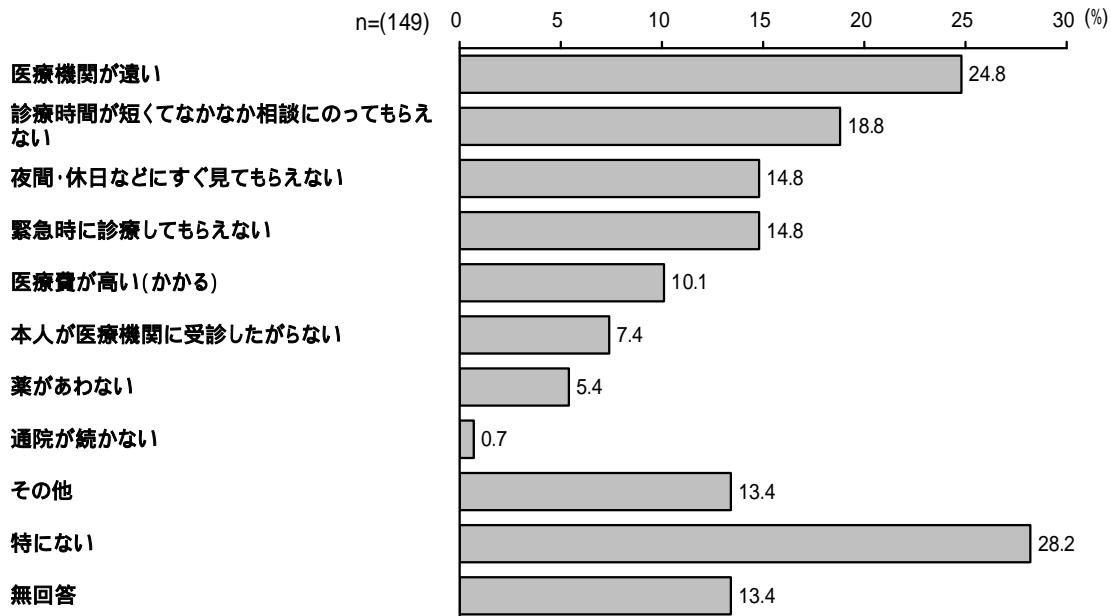
4 健康・医療について

問 17 現在、ご本人がかかっている医療機関は次のうちどれにあたりますか。(S A)



かかっている医療機関の種類については、「精神科病院」(47.7%)が最も多く、以下「神経科・精神科のクリニック」(33.6%)、「一般病院の神経科・精神科」(13.4%)となっている。

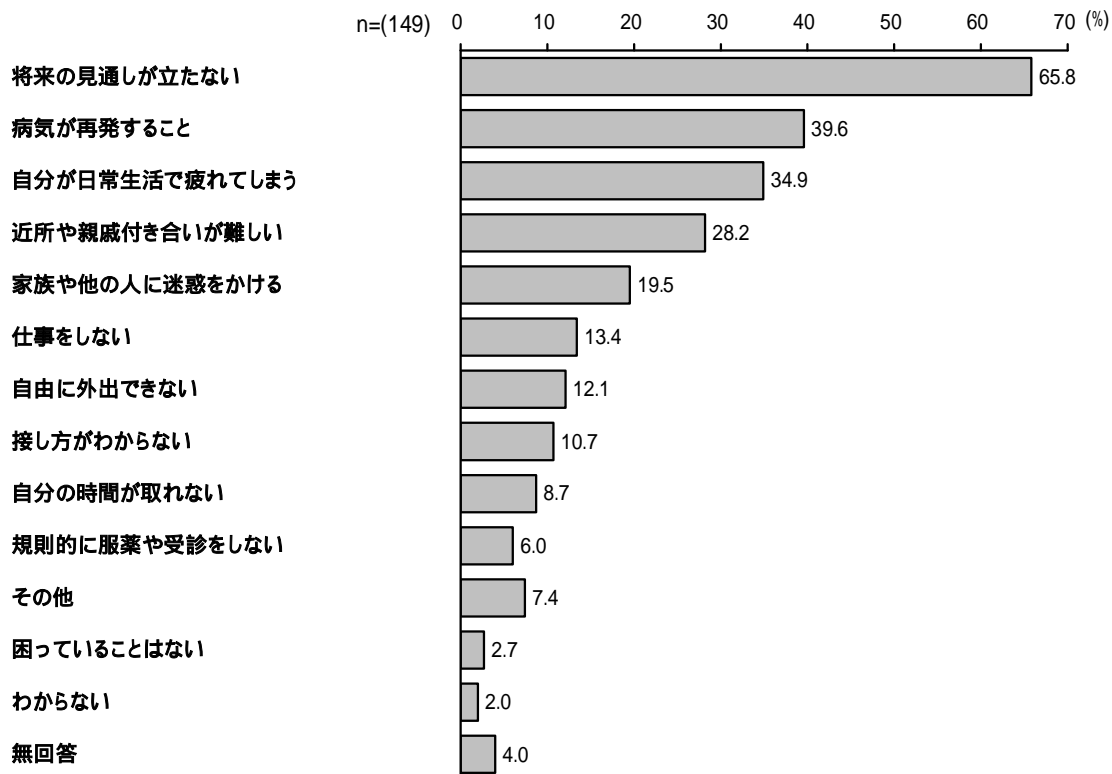
問 18 ご本人の精神科診療の上で困ったことがありますか。(M A)



精神科診療の上で困ったことについては、困ったことがある人は、「医療機関が遠い」(24.8%)が最も多く、「診療時間が短くてなかなか相談にのってもらえない」(18.8%)、「夜間・休日などにすぐに見てもらえない」、「緊急時に診療してもらえない」(ともに14.8%)となっている。

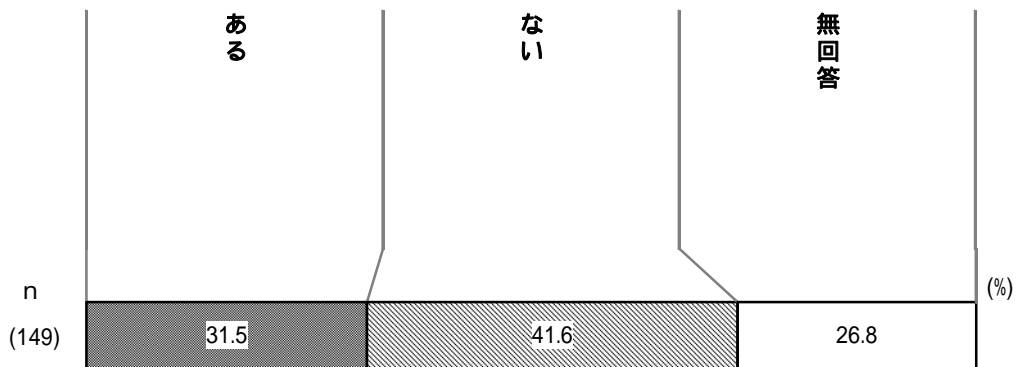
一方、「特にない」は28.2%となっている。

問 19 診療以外でご本人の精神疾患のことで困っていることはありますか。(MA)



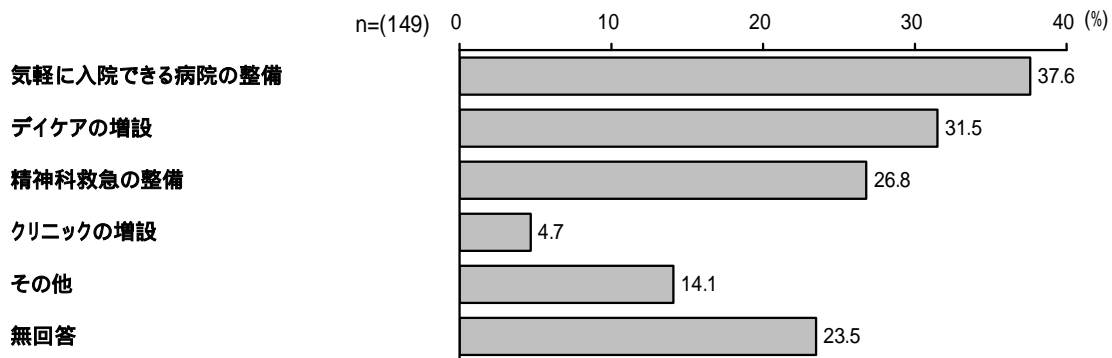
診療以外で精神疾患のことで困っていることについては、「将来の見通しが立たない」(65.8%)が最も多く、以下「病気が再発すること」(39.6%)、「自分が日常生活で疲れてしまう」(34.9%)となっている。

問 20 精神科以外の疾患、診療でご本人の困っていることはありますか。(S A)



精神科以外の疾患、診療で困っていることの有無については、困っていない人は41.6%、困っている人がある人は31.5%となっている。

問 21 医療に望むことは何ですか。(M A)

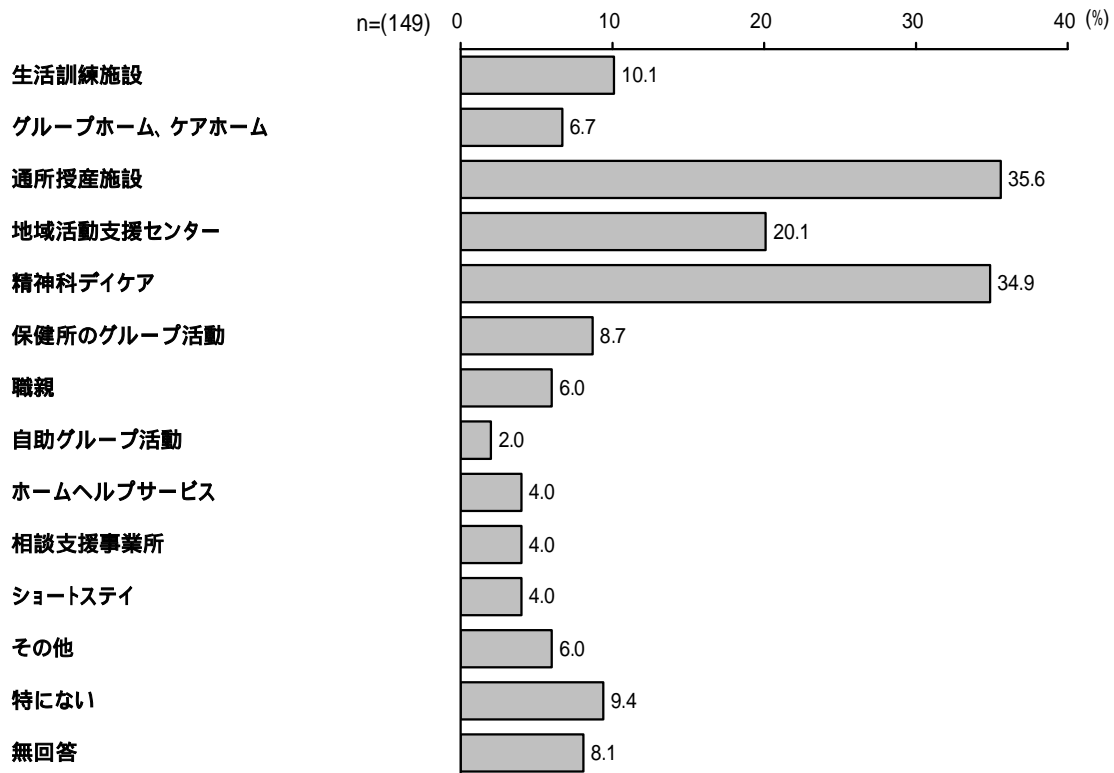


医療に望むことについては、「気軽に入院できる病院の整備」(37.6%)が最も多く、以下「デイケアの増設」(31.5%)、「精神科救急の整備」(26.8%)となっている。

5 福祉サービスについて

問 22 ご本人はどのような福祉サービスを利用していますか

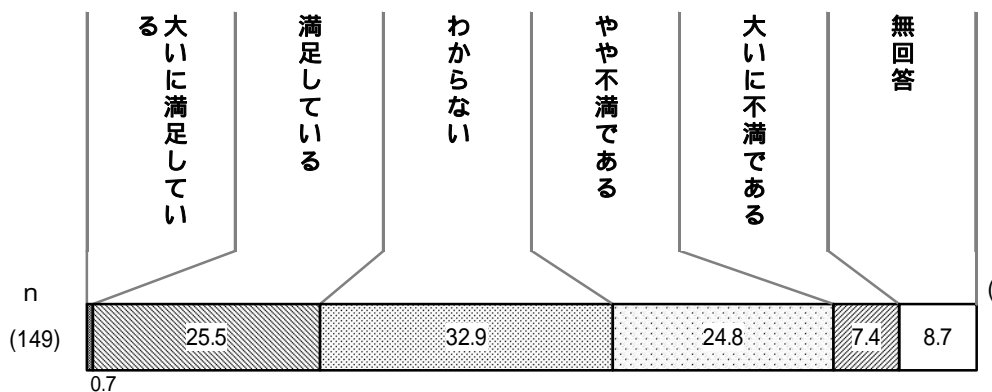
(したことがありますか) (MA)



これまでに利用した福祉サービスについては、利用したことがある人は、「通所授産施設」(35.6%) が最も多く、以下「精神科デイケア」(34.9%)、「地域活動支援センター」(20.1%) となっている。

一方、「特にない」は 9.4% となっている。

問 23 現在、あなたは仙台市にある障害者の福祉サービスに満足していますか。(S A)



障害者福祉サービスの満足度については、「大いに満足している」(0.7%)と「満足している」(25.5%)をあわせた、《満足している》人は26.2%となっており、「やや不満である」(24.8%)と「大いに不満である」(7.4%)とあわせた、《不満である》人は32.2%となっている。なお、「わからない」人は32.9%となっている。

問 24 23において「4 やや不満である」または「5 大いに不満である」を選択した方におたずねします。

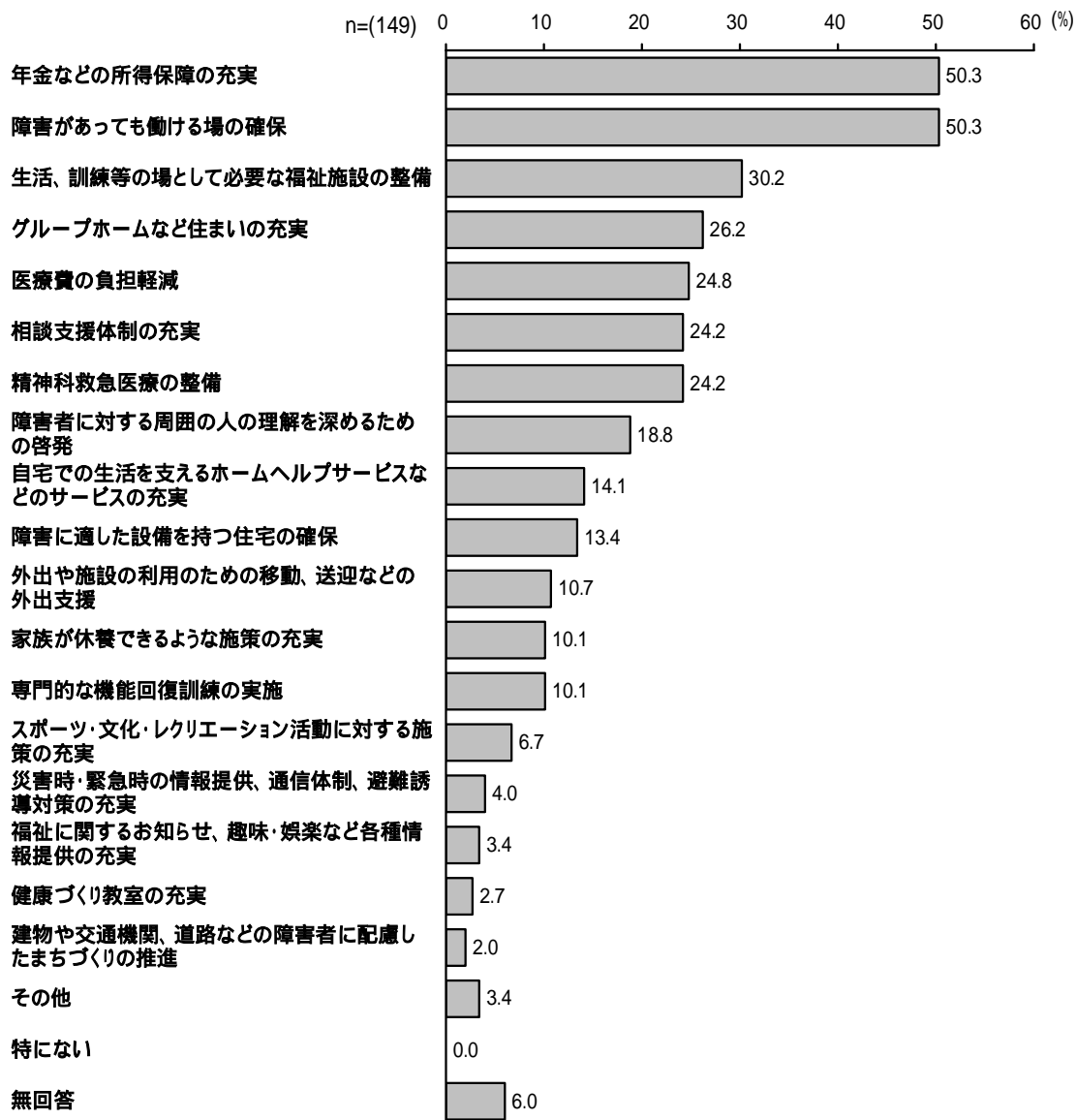
特にどのような福祉サービスに不満を感じていますか。(S A)

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	生活訓練施設	グループホーム	通所授産施設	地域活動支援センター	精神科デイケア	保健所のグループ活動	職親	自助グループ活動	ホームヘルプサービス	相談支援事業所	ショートステイ	その他	特にない	無回答
48	6	9	8	0	3	1	3	0	4	5	3	3	1	2
100.0	12.5	18.8	16.7	0.0	6.3	2.1	6.3	0.0	8.3	10.4	6.3	6.3	2.1	4.2

特に不満を感じる福祉サービスについては、不満を感じている人は、「グループホーム」(9件)「通所授産施設」(8件)がともに多く、次いで、「生活訓練施設」(6件)「相談支援事業所」(5件)となっている。

問 25 あなたが今後充実してほしい施策は何ですか。(M A)



今後充実してほしい施策については、「年金などの所得保障の充実」、「障害があっても働ける場の確保」(ともに 50.3%)が最も多く、以下「生活、訓練等の場として必要な福祉施設の整備」(30.2%)、「グループホームなど住まいの充実」(26.2%)となっている。

一方、「特にない」は 6.0%となっている。

【年齢別】

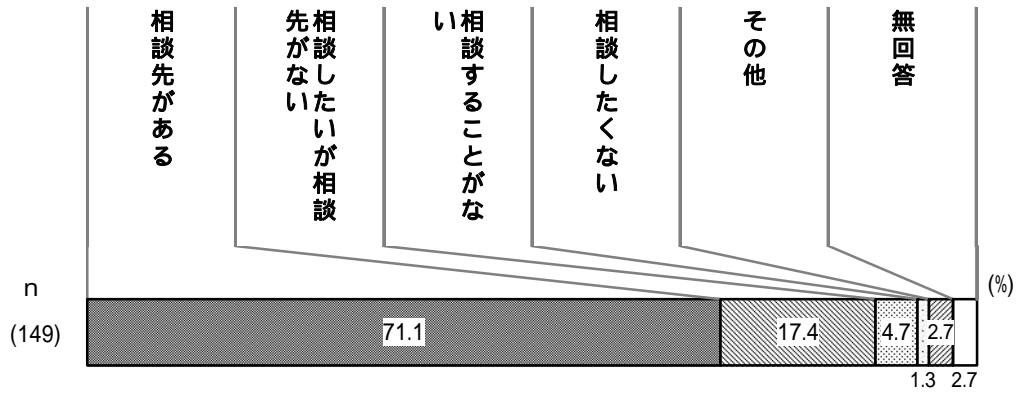
上段：件数 下段：%	調査数（n）	年金などの所得保障の充実	障害があっても働ける場の確保	生活、訓練等の場としての必要な福祉施設の整備	グループホームなど住まいの充実	医療費の負担軽減	相談支援体制の充実	精神科救急医療の整備	発症の理解を深めるための周囲の啓人	障害者に対する周囲の啓人	どのサービスの充実	自宅での生活を支えるサービス	障害に適した設備を持つ住宅の確保	外出や施設の利用のため支援、送迎などのため	家族が休養できるような施策の充実	専門的な機能回復訓練の実施
全体	149 100.0	75 50.3	75 50.3	45 30.2	39 26.2	37 24.8	36 24.2	36 24.2	28 18.8	21 14.1	20 13.4	16 10.7	15 10.1	15 10.1	15 10.1	15 10.1
20～30代	5 100.0	2 40.0	3 60.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0
40～50代	35 100.0	15 42.9	23 65.7	9 25.7	5 14.3	12 34.3	9 25.7	5 14.3	8 22.9	4 11.4	1 2.9	6 17.1	4 11.4	4 11.4	5 14.3	5 14.3
60歳以上	107 100.0	58 54.2	48 44.9	34 31.8	33 30.8	24 22.4	27 25.2	29 27.1	19 17.8	15 14.0	19 17.8	10 9.3	10 9.3	9 8.4	9 8.4	9 8.4

上段：件数 下段：%	施策の充実	スポーツ・文化活動に対する	対策の充実	災害時・緊急時の避難誘導	福祉・娯楽などお知らせ、	健康づくり教室の充実	子どもの障り者の推進	建物や交通機関、道路な	その他	特にな	無回答
全体	10 6.7	6 4.0	5 3.4	4 2.7	3 2.0	5 3.4	0 0.0	9 6.0	0 0.0	0 0.0	9 6.0
20～30代	2 40.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0
40～50代	3 8.6	0 0.0	0 0.0	2 5.7	0 0.0	1 2.9	0 0.0	2 5.7	0 0.0	0 0.0	2 5.7
60歳以上	5 4.7	4 3.7	4 3.7	1 0.9	3 2.8	3 2.8	0 0.0	6 5.6	0 0.0	0 0.0	6 5.6

年齢別にみると、60歳以上では「年金などの所得保障の充実」が54.2%と他の年代に比べて多くなっている。

6 相談機能について

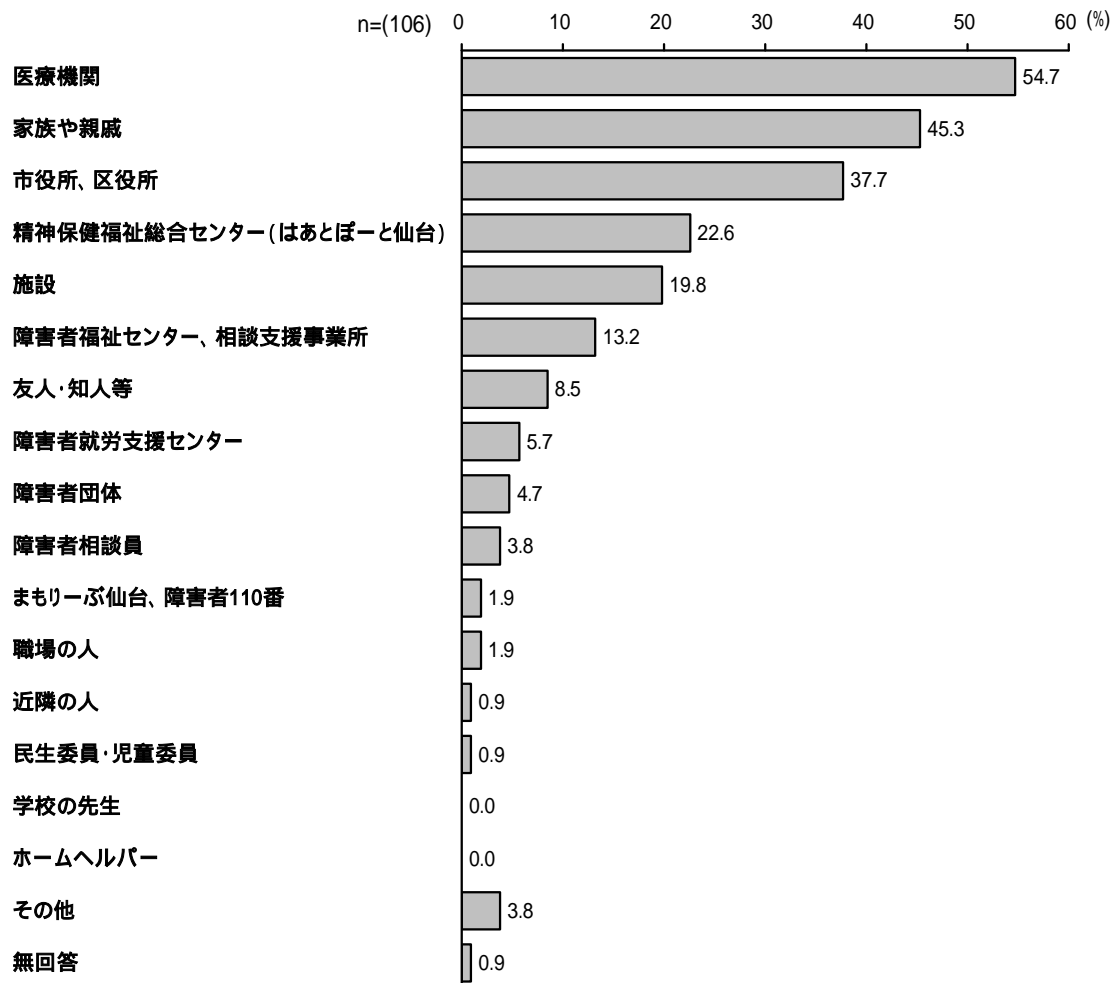
問 26 困ったときの相談について次のうちあてはまるのは何ですか。(S A)



困ったときの相談先の有無については、「相談先がある」が71.1%を占めている。

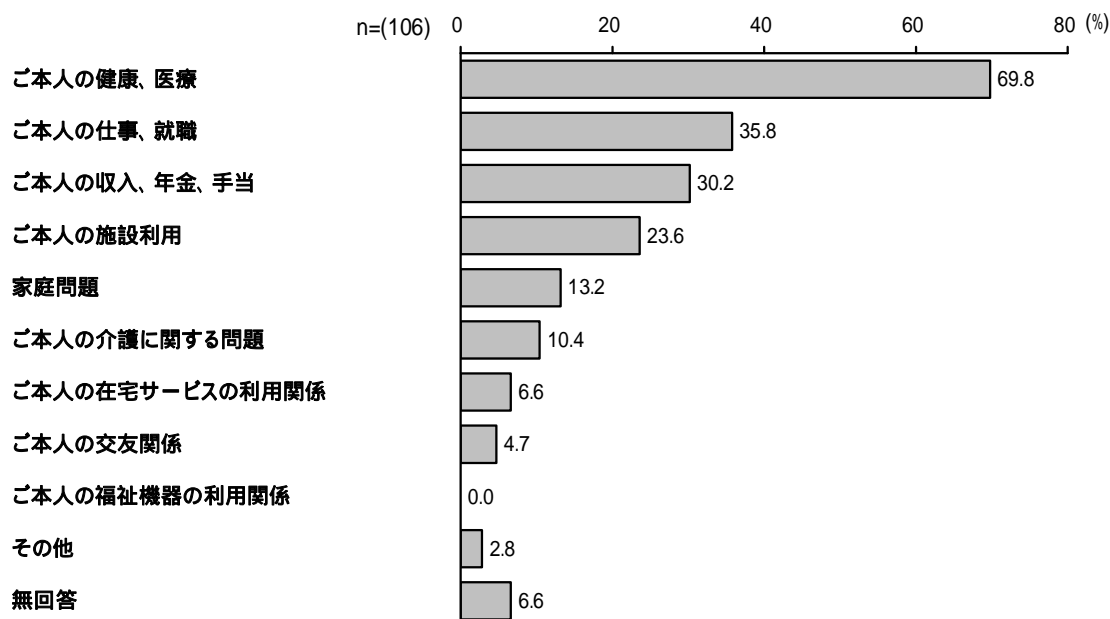
問 27 26 において「1 相談先がある」を選択した方におたずねします。

(1) 相談相手はどなたですか。(M A)



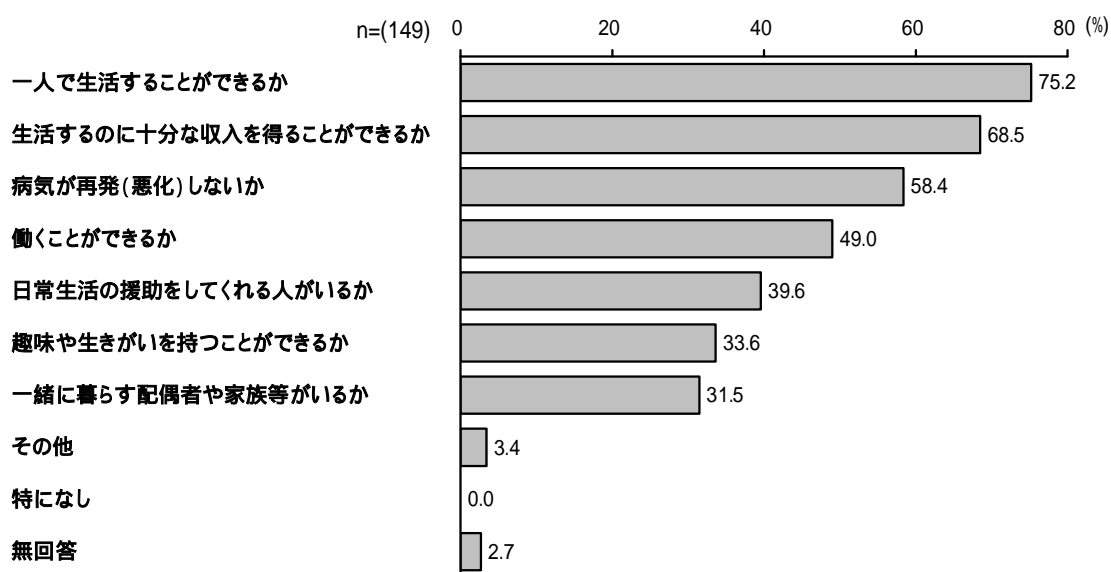
困ったときの相談相手については、「医療機関」(54.7%)が最も多く、以下「家族や親戚」(45.3%)、「市役所、区役所」(37.7%)となっている。

(2) 相談していること(したいこと)は何ですか。(MA)



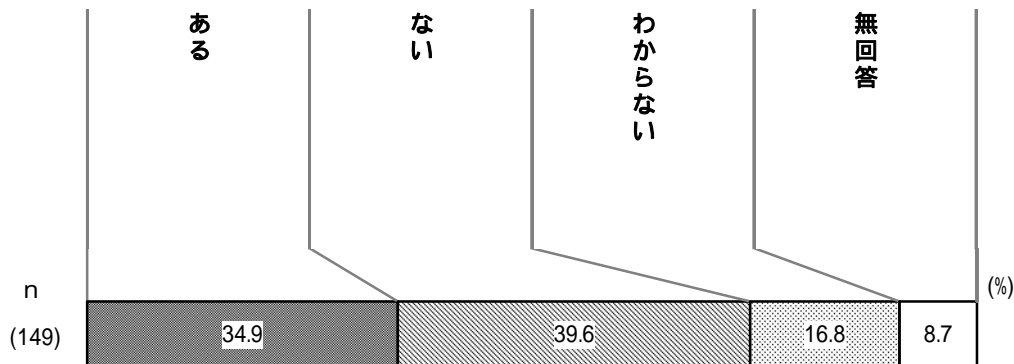
困ったときの相談相手に相談していること(相談したこと)については、「ご本人の健康、医療」(69.8%)が最も多く、以下「ご本人の仕事、就職」(35.8%)、「ご本人の収入、年金、手当」(30.2%)となっている。

問28 あなたがご本人の将来のことで、不安に感じていることは何ですか。(MA)



今後のことで不安に感じていることについては、「一人で生活することができるか」(75.2%)が最も多く、以下「生活するのに十分な収入を得ることができるか」(68.5%)、「病気が再発(悪化)しないか」(58.4%)となっている。

問 29 あなたはご本人が障害者ということで差別を受けたり、いやな思いなどをしたことがありますか。(S A)



障害を理由に差別を受けたり、いやな思いをしたことについては、「ない」が 39.6%、「ある」が 34.9%となっている。

問 30 29 において「1 ある」を選択した方におたずねします。

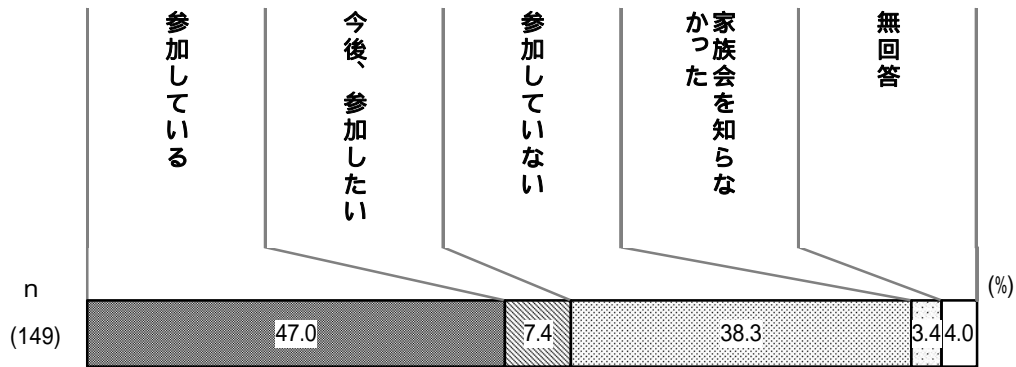
あなたは、どのような内容の差別を受けたり、いやな思いをしましたか。(M A)

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	外出時、言葉が気になった	い障害や兄弟、親類が病気で・	親や兄弟、親類が病気で・	害や理解できない病気や障	近隣や友人から病気や障	ず気窓・障保健福祉関係者が病	医窓・障保健福祉関係者が病	れ学校、職場で陰口を言わ	その他	無回答
52	37	19	17	11	10	4	1			
100.0	71.2	36.5	32.7	21.2	19.2	7.7	1.9			

受けた差別やいやな思いの内容については、「外出時、周囲の視線、態度、言葉が気になった」(37件)が最も多く、以下「親や兄弟、親類が病気・障害を受け入れてくれている」(19件)、「近隣や友人から病気や障害を理解できないと言われた」(17件)となっている。

問 31 あなたは家族会に参加していますか。(S A)



家族会の参加の有無については、「参加している」(47.0%)が最も多く、以下「参加していない」(38.3%)、「今後、参加したい」(7.4%)となっている。

【年齢別】

	調査数 (n)	参加している	今後、参加したい	参加していない	家族会を知らなかった	無回答
上段：件数 下段：%						
全体	149 100.0	70 47.0	11 7.4	57 38.3	5 3.4	6 4.0
20～30代	5 100.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	0 0.0	0 0.0
40～50代	35 100.0	12 34.3	5 14.3	17 48.6	0 0.0	1 2.9
60歳以上	107 100.0	57 53.3	6 5.6	34 31.8	5 4.7	5 4.7

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがって「参加している」は多く、「参加していない」は少なくなっている。

問 32 31 において「1 参加している」または「2 今後、参加したい」を選択した方におたずねします。

家族会としてどのようなことを実施してほしいと思いますか。(MA)

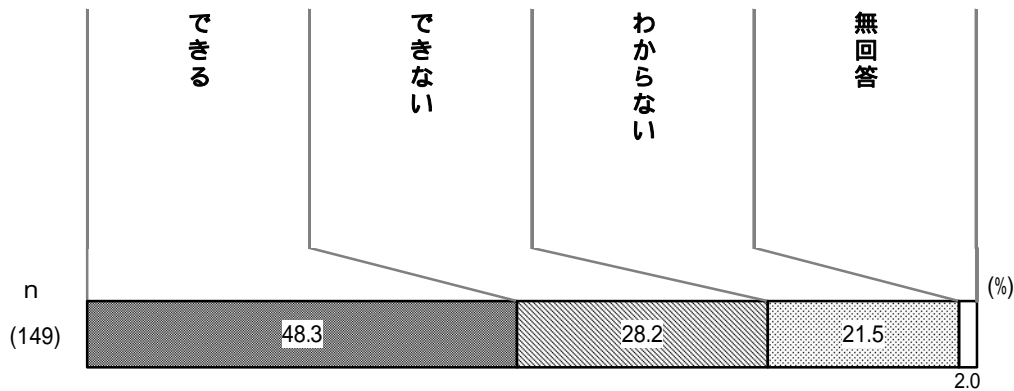
(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	病気についての学習	かめ社会参加や社会復帰のための行政や社会への働きかけ	社会復帰についての学習	習本人の対応についての学習	福祉制度についての学習	家族に対する相談援助	に作業所などの設置や運営	その他	無回答
81	35	35	34	31	27	21	16	3	2
100.0	43.2	43.2	42.0	38.3	33.3	25.9	19.8	3.7	2.5

家族会として実施してほしいことについては、「病気についての学習」、「社会参加や社会復帰のための行政や社会への働きかけ」(ともに 35 件)が最も多く、以下「社会復帰についての学習」(34 件)、「本人の対応についての学習」(31 件)となっている。

7 災害対策について

問 33 ご本人は地震などの災害発生時、一人で避難することができますか。(S A)



地震などの災害発生時、一人で避難することの可否については、「できる」(48.3%)が最も多く、以下「できない」(28.2%)となっている。

なお、「わからない」は21.5%となっている。

問 34 33において「2 できない」を選択した方におたずねします。

(1) 災害のとき一人で避難することができない理由は何ですか。(M A)

(上段：件数、下段：%)

理由	調査数 (n)	割合 (%)
判断して行動することができないため	30	71.4
パニックを起こしてしまうため	18	42.9
避難勧告などの情報が困難なため把握することが困難なため	16	38.1
動作が緩慢なため	11	26.2
病気のため	8	19.0
介助者がいないと移動できないため	5	11.9
常に介護者が必要なため	3	7.1
その他	2	4.8
無回答	2	4.8

災害のとき一人で避難することができない理由については、「判断して行動することができないため」(30件)が最も多く、以下「パニックを起こしてしまうため」(18件)、「避難勧告などの情報を把握することが困難なため」(16件)となっている。

(2) ご本人は、仙台市が実施している災害時における要援護者情報登録制度を申し込んでいますか。(S A)

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	申し込んでいる	申し込んでいない	無回答
42	1	39	2
100.0	2.4	92.9	4.8

災害時における要援護者情報登録制度への申し込みについては、「申し込んでいない」が39件、「申し込んでいる」は1件となっている。

(3)(2)において「2 申し込んでいない」を選択した方におたずねします。
その理由は何ですか。(S A)

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	障害があることを知られた	登録要件に該当しない	制度を知らない	必要ない	その他	無回答
39	2	0	34	1	1	2
100.0	5.1	0.0	87.2	2.6	2.6	5.1

災害時における要援護者情報登録制度を申し込んでない理由については、「制度を知らない」が34件となっている。

一方、「必要ない」は1件となっている。

(4) ご本人には家族以外の方で、地震などの災害時に手伝いや支援をしてくれる特定の方はいますか。(SA)

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	いる	いない
42	9	33
100.0	21.4	78.6

家族以外で、災害発生時に手伝いや支援をしてくれる人の有無については、「いない」が 33 件となっている。

(5)(4)で「1 いる」を選択した方におたずねします。

家族以外の方で、地震などの災害時に手伝いや支援をしてくれる特定の方はどなたですか。(MA)

また、(4)で「2 いない」を選択した方におたずねします。

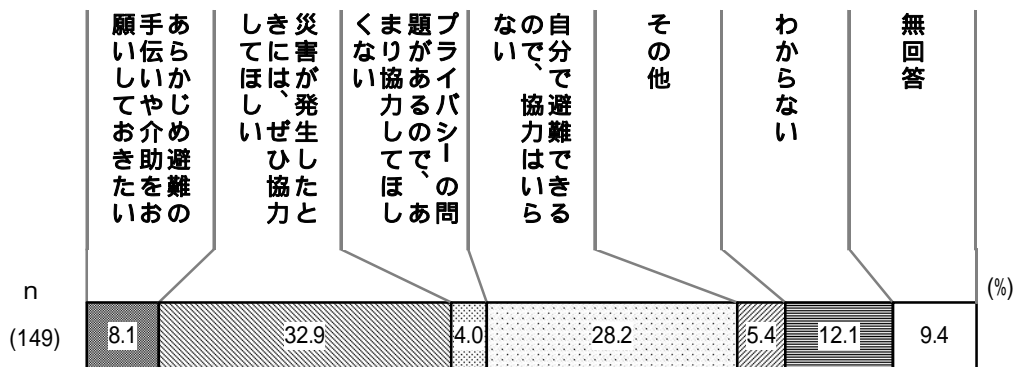
どなたに助けてほしいですか。(MA)

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	救援隊・消防隊など	近所の住民 (親戚を含む)	ボランティア	民生委員・児童委員	その他	協力してほしくない	無回答
42	19	14	12	9	5	0	5
100.0	45.2	33.3	28.6	21.4	11.9	0.0	11.9

家族以外で災害時に助けてくれる(助けてほしい)人については、「救助隊・消防隊など」(19件)が最も多く、以下「近所の住民(親戚を含む)」(14件)、「ボランティア」(12件)となっている。

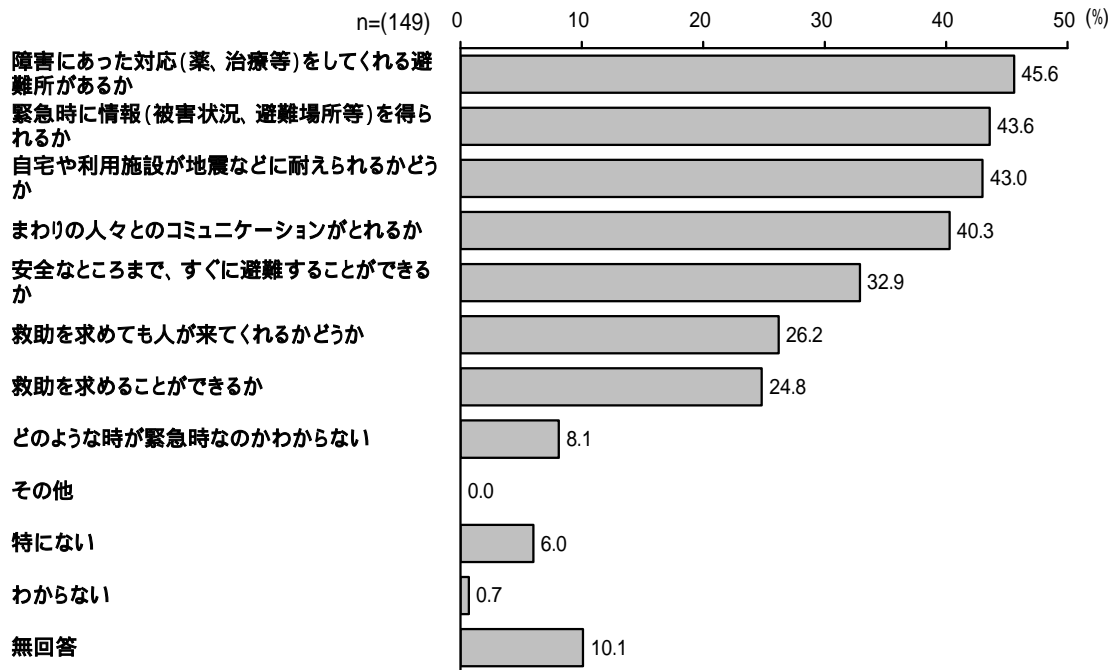
問 35 地震などの災害が発生したときのために、あらかじめ近所の人やボランティアなどにご本人の避難の手伝いや介助をお願いしておくことについて、どのように思いますか。
(S A)



あらかじめ避難の手伝いや介助を依頼することへの意向については、「災害が発生したときには、ぜひ協力してほしい」(32.9%)が最も多く、以下「自分で避難できるので、協力はいらぬ」(28.2%)、「あらかじめ避難の手伝いや介助をお願いしておきたい」(8.1%)となっている。

なお、「わからない」は12.1%となっている。

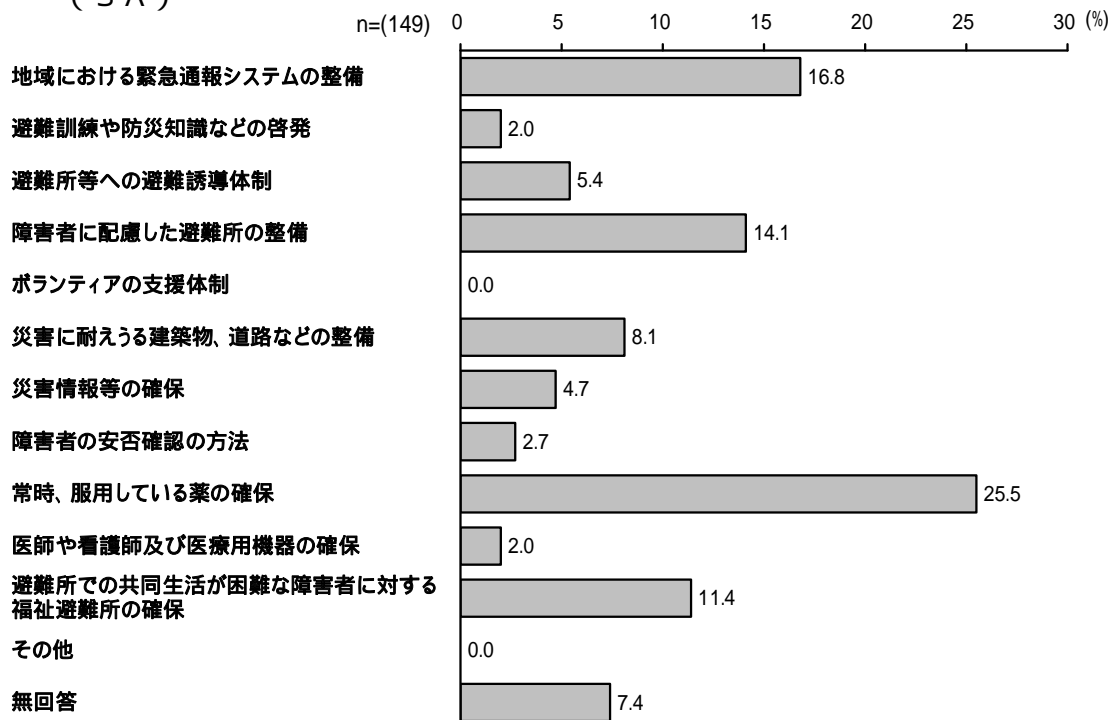
問 36 地震などのいざという時、ご本人のことで、あなたがふだん不安に感じていることは何ですか。(MA)



地震などのいざという時、ふだん不安に感じていることについては、「障害にあった対応(薬、治療等)をしてくれる避難所があるか」(45.6%)が最も多く、以下「緊急時に情報(被害状況、避難場所等)を得られるか」(43.6%)、「自宅や利用施設が地震などに耐えられるかどうか」(43.0%)、「まわりの人々とのコミュニケーションがとれるか」(40.3%)となっている。

問 37 地震、台風などの災害に対してもっとも大切と思う対策はどんなことだと思いますか。

(S A)



地震、台風などの災害に対して最も大切と思う対策については、「常時、服用している薬の確保」(25.5%)が最も多く、以下「地域における緊急通報システムの整備」(16.8%)、「障害者に配慮した避難所の整備」(14.1%)となっている。

【年齢別】

	調査数 (n)	地域における緊急通報システムの整備	避難訓練や防災知識などの啓発	避難所等への避難誘導體制	障害者に配慮した避難所の整備	ボランティアの支援体制	災害に耐えうる建築物、道路などの整備	災害情報等の確保	障害者の安否確認の方法	常時、服用している薬の確保	医師や看護師及び医療用機器の確保	避難所での共同生活が困難な障害者に対する福祉避難所の確保	その他	無回答
上段：件数 下段：%	149	25	3	8	21	0	12	7	4	38	3	17	0	11
全体	100.0	16.8	2.0	5.4	14.1	0.0	8.1	4.7	2.7	25.5	2.0	11.4	0.0	7.4
20～30代	5	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1
	100.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0	20.0
40～50代	35	9	1	1	3	0	2	3	1	8	2	4	0	1
	100.0	25.7	2.9	2.9	8.6	0.0	5.7	8.6	2.9	22.9	5.7	11.4	0.0	2.9
60歳以上	107	15	2	7	17	0	10	4	3	27	1	12	0	9
	100.0	14.0	1.9	6.5	15.9	0.0	9.3	3.7	2.8	25.2	0.9	11.2	0.0	8.4

年齢別では、特に大きな違いはみられない。

【精神障害者保健福祉手帳の有無別】

	調査数 (n)	地域における緊急通報システムの整備	避難訓練や防災知識などの啓発	避難所等への避難誘導体制	障害者に配慮した避難所の整備	ボランティアの支援体制	災害に耐える建築物、道路などの整備	災害情報等の確保	障害者の安否確認の方法	常時、服用している薬の確保	医師や看護師及び医療用機器の確保	避難所での共同生活が困難な障害者に対する福祉確保	その他	無回答
上段：件数 下段：%														
全体	149 100.0	25 16.8	3 2.0	8 5.4	21 14.1	0 0.0	12 8.1	7 4.7	4 2.7	38 25.5	3 2.0	17 11.4	0 0.0	11 7.4
1級を持っている	29 100.0	5 17.2	0 0.0	1 3.4	4 13.8	0 0.0	1 3.4	2 6.9	2 6.9	9 31.0	0 0.0	2 6.9	0 0.0	3 10.3
2級を持っている	78 100.0	12 15.4	2 2.6	4 5.1	15 19.2	0 0.0	6 7.7	4 5.1	1 1.3	19 24.4	2 2.6	9 11.5	0 0.0	4 5.1
3級を持っている	12 100.0	2 16.7	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 8.3	0 0.0	0 0.0	4 33.3	0 0.0	4 33.3	0 0.0	0 0.0
手帳制度を知らなかった	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
制度は知っていたが持っていない	12 100.0	4 33.3	0 0.0	1 8.3	1 8.3	0 0.0	1 8.3	1 8.3	0 0.0	4 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
これから申請させたい（申請中である）	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
わからない	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0
その他	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0

精神障害者保健福祉手帳の有無別では、特に大きな違いはみられない。

8 精神障害者の家族の自由回答

アンケートに、自由に発言していただける欄を設けたところ、意見数は41件であった。以下に主な意見を抜粋し、まとめた。

精神障がい、知的障がいや身体障がいに比べると全ての面で遅れていると思います。訪問型サービスをもっと充実してほしい。患者家族が求めるもの、本人の病状の不安、家族自身の不安。京都では訪問型サービスを実施していると聞いております。月1回では不足だと思います。週1回、1時間くらいの訪問ですといいですね。またスタッフと外食したりする、いつでも電話相談できる状態である。生活によりそう、訪問型医療、精神的医療改革、積極的に訪問する。

病院の充実、設備、薬の確保。

統合失調症でも適切な治療を受け、地域の社会資源を活用し、社会の中で生きていくことができるような環境が整っていないと思います。地域生活支援構築ももっとも必要と感じます。

本人の将来に対する不安が、私たち身内にとっては大変な心の負担があがっています。私たちは高齢者です。また、何十年と本人と一緒に生活してきたことにも限度があり、精神的にもきつく、私たちにも心のひずみがあり、バランスが崩れることが多々あります。

医療機関、福祉施設、行政機関とありますが、統一的に総合的に全ての相談を受けてもらえるワンストップサービスの窓口があればいいと思います。本人のこと、家族の問題も一緒に考えて、問題解決のための提案をもらえ、かつ、必要に応じて一緒に行動してくれる存在があれば、心強いと思います。一応は区の保健師さんなども相談に応じているようですが、実際はその職務の中での相談だったりするので、緊急な対応ができなかったりしています（過去の経験から）。困っている人は大勢いますが、どこの相談機関にもつながるつながることができない人も多いと思います。そういう人の中で病識がなく、犯罪行為にいたり、自傷、他害を起こしてしまう悲しい例がよく聞かれます。開かれた相談機関を望みます。

障がい者が家族にも理解してもらえず、お気の毒な方がいらっしゃいますが、病気を特別視する社会から理解してもらえる社会へ変わってほしいです。親戚の者で、職場でのストレスのため、仕事を辞めて、自宅にいます。その両親はどう扱っているか悩みながらも受診をすすめてもその気にはならず、ただ心配しながら毎日を過しているようです。そのような人々がもっといらっしゃるのではないかと思います。そのような人々はどこに相談したらよいか教えてほしいと思います。

体調悪化により、どうしても入院が必要な時に本人が、家族では手に負えない場合、応援、手助けしていただけるようなシステムがあればと考えております。

親である私たちが居なくなった時、自活できないこの人が生きていける場があるのか。このことが最大の心配事です。

現在本人はグループホームで生活していて、世話人や、管理人、係ってくれる人たちの中にいるため、何とか過せているが、家庭で日常を送ることが困難である。入院生活も長かったため、食事の仕度も1人でできず、服薬も管理することができずに、多量を1度に飲んだりしてしまっていた。援助してくれる人たちの中で、仲間と一緒に、金銭管理はまもりーぶさんにお世話いただくことになりそうである。まだ、1人でできないことを練習しながら、自立できるようにするプロセスを体験できる「場所」がたくさんあってほしいと思う。グループホームももっと数多くあってほしい。

